

1) 「第2次改革プラン “骨子”」

平成24年 5月30日 委員:西村 康正

* 行政サービスへのニーズは今後益々広範囲に複雑に拡大する。掛川市の行革精神に則り(第1次改革プラン)、固定的経費の身の丈運用の考え方から、必要不可欠な行財政運営の再構築と中長期的な自主財源の増強を目的に、以下をコンセプトとする。

【基本コンセプト】

- ①協働コンセプトによる市業務の再構築 …1) 職員数削減、2) 業務や資産の民間開放、3) 給与制度等の適切運用、4) 補助金見直し
- ②自主財源の増強策の構築と提言 …現有資産の有効活用による地域社会の「安心・安全・成長」を図る活性化(案)の構築と提言
- ③市債務残高の削減 …市長マニフェストの最重要項目の一つ。毎年の市債発行額や残高の監視。
- ④職員の改革マインドを高める環境整備 …改革改善への職員への動機付け、改革マインドの向上、政策形成能力の向上

【審議会の具体的取り組み方針】

- ①「審議・検討方法」 □ 「分科会方式による検討」
～2つのWorking-Groupでの集中審議～
 - ②「分科会テーマ」 □ 「コンセプトにあうテーマ設定」
- 1) 経常的経費の見直し・刷新部会、2) 自主財源増強部会

【審議会提言スケジュール】

「HOP」 ～24年9月 審議会提言	「STEP」 ～24年11月 市側プラン提示	「JUNP」 24年12月～ プラン実行
--------------------------	------------------------------	----------------------------

【アプローチ方法】…(参考)

「仮説と証明」のアプローチを実施。「AならばBである」という形式をとり、Aが前提・仮説であり、Bが帰結・結論となる。仮説から結論を論理的(演繹的)に導くことが証明となる。本WGはこの論理の展開によりアプローチを行っていく。

2) 「第1WGの具体的活動内容」 …「基本コンセプト」の①を担当

STEP-I …28年度に削減目標△17億円達成!

《確認事項》 …6月26日の第三回行革審(分科会)の審議に向けて!!

- 1) 収入の伸びを「0」とみた「長期財政見直し」の基礎数値がベースでいいか?
- 2) 前提となる現時点での「取り巻く環境認識」は第1期の継続でいいか?
- 3) 項目別削減目標は第一次目標数値でいいか? 17億円は確定。
- 4) 公債費はハンドリング可能な経費なのか? 組み入れていいのか?

《議論のポイント》

- 1) 絶対的削減値をコンクリートしたため、不確定要素(社会的・経済的・政治的・地域的等々)は排除し、前回の「0」成長ベースの長期計画をベースに議論する。
- 2) 「項目別削減目標」については、分科会のたたき台をベースにして、これを削減絶対額として位置づけ検討を開始する。
- 3) 市民・議員・職員とも意識を共有し、目標達成に向けてブレない取り組みを持続させるために年度別削減目標を設定。
- 4) この項目別削減目標を「仮説値」として設定して、それを達成させるための証明作業を実行していく。⇒「ツリー図」を作成

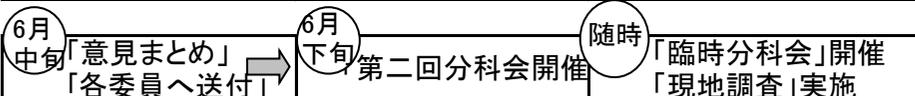
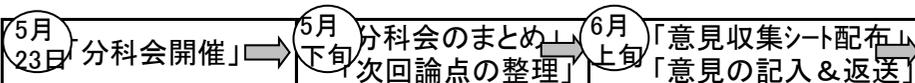
【ツリー図】…削減目標達成のためのアプローチ図

- 1) 人件費から補助費(公債費含むか否か)までの大項目と中項目、小項目にまで絶対的数値と対象項目を落とし込んでいく(私見:取材後決定)
- 2) WG(案)を作成
- 3) 同時に「事務局にも同様のシミュレーション作業を依頼」
- 4) WG、及び事務局は双方の(案)について活発な意見交換を行い、各小中項目の絶対的内容と金額を確定させる
- 5) 4)の議論は次回6/26日の分科会で行うが、1)2)については6月の月上旬に各委員に事前取材をし、それをとりまとめて6/26日に臨む

STEP-II …「いよいよ項目別行動計画の策定へ」

《分科会の進め方》

- 1) 人件費&物件費…協働社会の主体は何か? 民営化、民間委託、指定管理者制度、継続、廃止か縮小の決定が最優先事項。特に公共施設に関しては、第1期行革審で獲得した成果から結論付けを実施(体育施設のみならず文化施設、教育、福祉施設等聖域無き見直し)
- 2) 補助費、補助金についても上記と同じく、第1期の成果を発展させ、改善レベルから改革レベルへの施策提案を行う。
- 3) この分科会は非常に専門的で神経質なもので、一朝一夕には結論は出ないが、最終のまとめが9月と要請されていることから、この分科会活動は綿密なスケジュール管理のもと実施していく。
- 4) 活動の基本的な流れ(例)



分科会活動のポイント&流れ
分科会実施後には1週間前後には会議のまとめを送付。その際、まとめに加え次回開催の論点を明確化。その論点に関する意見を添付する意見集計シートに記入&返送
意見の集計後再返送。そのペーパーを基に次回分科会で議論。

表-1) 項目別削減目標(第1次行革プランから)

目標	H22年	削減額	削減率
人件費	4,470,535	-223,000	-5.0%
物件費	6,933,765	-600,000	-8.7%
補助費等	964,730	-165,000	-17.1%
公債費	5,437,429	-746,000	-13.7%
合計	17,806,459	-1,734,000	-9.7%

表-2) 参考: 第1期第3回提言「削減△31億円」

目標	H22年	削減額	削減率
人件費	4,470,535	-823,000	-18.4%
物件費	6,933,765	-1,280,000	-18.5%
補助費等	964,730	-330,000	-34.2%
公債費	5,437,429	-746,000	-13.7%
合計	17,806,459	-3,179,000	-17.9%

* 例えば「人件費」の△18.4%は23年職員数809人に対し、△140人の削減に相当する

表-3) 項目別ツリー図

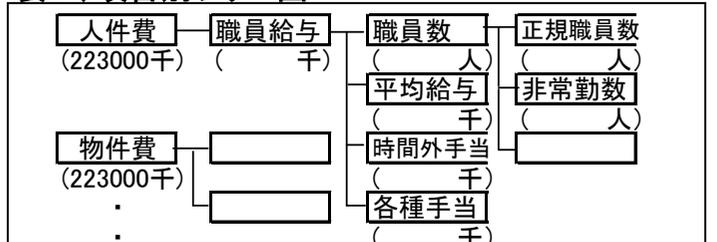


表-4) 提案: 年度別削減目標の設定(数字は仮置き)

	25年度	26~27年度	28年度
人件費	4,470,535	→	4,247,535
物件費	6,933,765	→	6,333,765
補助費等	964,730	→	799,730
公債費	5,437,429	→	4,691,429
合計	17,806,459	→	16,072,459
人件費	0	→	-223,000
物件費	0	→	-600,000
補助費等	0	→	-165,000
公債費	0	→	-746,000
合計	0	→	-1,734,000
人件費	0	→	-5.0%
物件費	0	→	-8.7%
補助費等	0	→	-17.1%
公債費	0	→	-13.7%
合計	0	→	-9.7%

表-5) :【分科会での議論テーマ】

	開催日	内容
◇「第一回」	5月23日	「今後の進め方について」
◇「第二回」	6月26日	「テーマの決定」
◇「第〇回」	7月〇日	「市事業棚卸し、削減ツリー図に基づくシミュレーションの検討及び最終提言に向けて」
◇「第〇回」	9月〇日	「市へ改革項目の提言」

(取材以来)・・・P-1で提案した内容確認を皆様への取材を基に実施し、取りまとめフィードバック後に、第二回分科会に望みたいと考えています。
【提出期限】6月15日(金)

第1WG 委員名

1)収入の伸びを「0」とみた長期財政見通しの基礎数値がベースでいいか？
(理由)

YES NO

--

2)第2期行革審での削減目標は第1次プランのままでよいか？(表-1)の総額
(理由)

YES NO

--

3)その費目別削減目標は第1次プランでよいか？(表-1)の費目別削減額
(理由)

YES NO

--

4)「公債費」の取り扱いはいかがすべきか？削減4本柱の一つに設定する
(理由)

YES NO

--

5)時系列での進捗を把握するために年度別目標を明確化すべきか？
(理由)

YES NO

--

6)削減の対象とする経費について、他に候補とすべきものがあるか
(理由)

YES NO

--

6)タイトなスケジュールの中、私案の「活動の流れ」(P-1下段)でよいか？
(理由)

YES NO

--